

## 羽前絹練株式会社と国登録について答申された建造物

### 1 羽前絹練株式会社について

明治39年(1906)6月創立。翌年創業する羽前織物株式会社が輸出絹織物の製造販売を行うにあたって、その精練工程を担った。大正13年(1924)3月には鶴岡織物株式会社系の精練会社を吸収し、地域独占的な精練会社となる。

戦後、全国的に精練業者が合成繊維加工に事業転換していき市場が縮小する中、同社は絹織物精練業にとどまり、国内各地からの受注に対応してきた。また、染色部門にも進出しており、伝統的な絹織物製品だけでなく、海外向けのスカーフなど各種製品の特殊加工の充実も図っている。平成29年に認定された日本遺産「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」の構成文化財の一つ。

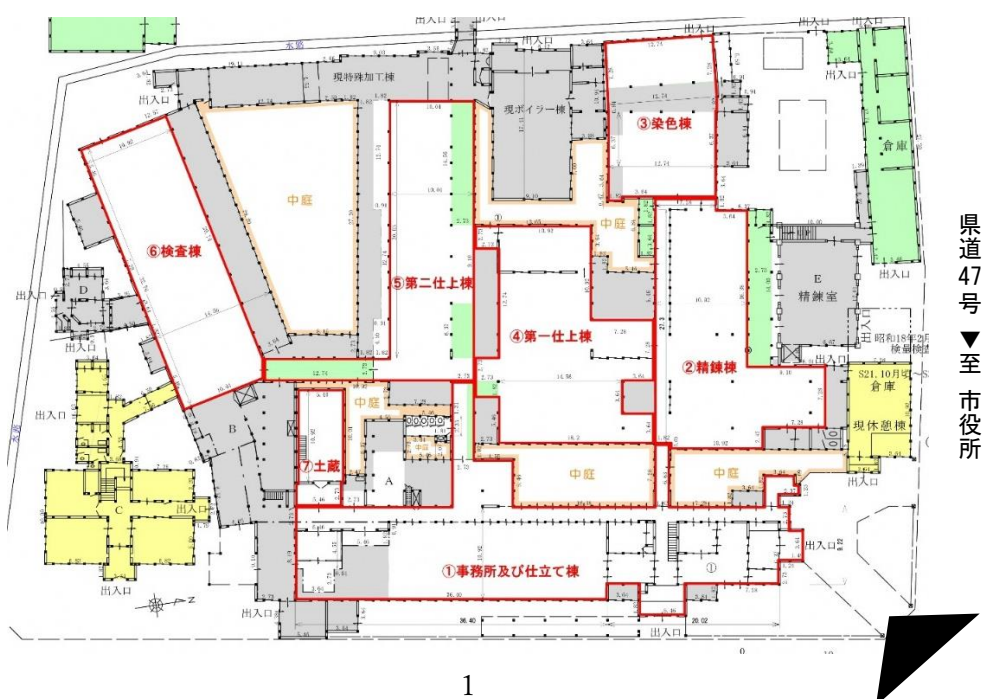
### 2 絹織物までの工程と「精練」について

絹織物に係る工程は以下のとおり。このうち、精練は、製糸・製織された織物から不純物を除去することで、絹をなめらかに仕上げ、光沢を生む工程。

- ①養蚕<sup>ようさん</sup> 蚕を育てて、まゆ玉を生産する
- ②製糸<sup>せいし</sup> 複数の繭を煮てやわらかくし、糸を繰り出して一本の糸にする工程
- ③製織<sup>せいしよく</sup> 経糸(たていと)と緯糸(よこいと)で布地を織り上げる工程
- ④精練<sup>せいれん</sup> 絹の表面にあるセリシンなど不純物を石鹼とアルカリ薬剤を入れた湯で煮溶かす工程
- ⑤捺染<sup>なつせん</sup> 織物に色を染める工程

### 3 国登録について答申された建造物(7件)

- |                             |                   |
|-----------------------------|-------------------|
| (1) 羽前絹練株式会社事務所及び仕立て棟       | (5) 羽前絹練株式会社第二仕上棟 |
| (2) 羽前絹練株式会社精練棟             | (6) 羽前絹練株式会社検査棟   |
| (3) 羽前絹練株式会社染色棟(旧染色室及び旧汽罐室) | (7) 羽前絹練株式会社土蔵    |
| (4) 羽前絹練株式会社第一仕上棟           |                   |



## 1 事務所及び仕立棟

○建築 昭和15年／同年焼失の再建  
(昭和中期増築)

○特徴

- ・工場の表構えは切妻屋根を重ねる。
- ・事務所の南に平屋建の仕立棟を接続する。
- ・仕立棟には、反物を木枠に巻取り精練用に仕立てる140畳の準備室。



## 2 精練棟

○建築 大正後期

○特徴

- ・絹織物を水槽で煮て不純物を除去する棟で、工場の中核施設の一つ。
- ・切妻屋根頂部の越屋根と南・北面の開口から高熱の蒸気を排出する。
- ・内部は土間で、生地を移動するための吊り下げレールをクイーンポスト・トラス下に設える。



※越屋根……こしやね。大屋根の上に設ける小さな屋根

※クイーンポスト・トラス……二重小屋組みで陸梁(ろくばり:トラスの一番下に、水平に置かれる梁)と二重梁(にじゅうばり)があり、中央付近に、垂直に2本の支柱(対東:たいづか)が入ったもの

## 3 染色棟 (旧染色室及び旧汽罐室)

○建築 昭和4年

(昭和8年頃、昭和中期増築)

○特徴

- ・精練後の生地を染める棟。
- ・棧瓦葺の旧染色室と東側に増築したセメント瓦葺の旧汽罐室を鉄板葺で繋ぐ。
- ・各棟内部は一室の土間。
- ・染料液から発する蒸気の排気のため、それぞれ越屋根を設ける。



※汽罐室……きかんしつ。ボイラー室

## 4 第一仕上棟

○建築 大正後期

(昭和前期増築)

○特徴

- ・精練・染色後にすすぎ・脱水・乾燥といった仕上工程を担う棟。
- ・平屋建で西を寄棟造、東を切妻造とする棧瓦葺の東西棟で、外壁下見板張。
- ・内部は土間で上部にキングポスト・トラスを現す。
- ・棟中央の採光・換気用の越屋根が工場景観をつくる。



※キングポスト・トラス……洋式小屋組の最も標準的なもので、中央に垂直の支柱(真東:しんづか)が入ったもの

## 5 第二仕上棟

○建築 大正後期  
(昭和中期増築)

### ○特徴

- ・乾燥収縮した生地の幅を整える工程を担う棟。
- ・東西に長い平屋建、切妻造、棧瓦葺で、外壁は北側が下見板張り、南側がトタン張。
- ・棟中央に換気・採光用の越屋根を設ける。
- ・内部は土間で巻取機などを並べており、上部にキングポスト・トラスを現す。



## 6 検査棟

○建築 昭和 18 年頃

### ○特徴

- ・目視検査し、出荷用に仕分ける棟。
- ・平屋建、切妻造、棧瓦葺、外壁は下見板張。
- ・内部は一室の板間で天井を張る。
- ・簡素なつくりながら昭和戦前の様相を伝える。



## 7 土蔵

○建築 大正後期  
(昭和 15 年移築)

### ○特徴

- ・製品保管用の蔵。
- ・桁行六間、梁間三間、土蔵造二階建、切妻造、妻入、棧瓦葺、外壁は漆喰塗仕上げ。
- ・内部は各階一室の板敷とし、二階上部にキングポスト・トラスを現す。
- ・戸口に掛子塗扉を吊り重厚なつくりの土蔵。



※掛子塗扉……かけごめりとびら。左右が組み合うように段をつけて、漆喰塗された観音開きの扉